

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・よりよい学校生活にするために、自分たちの周りに生じた問題について話し合い、解決できる力を養う。
- ・いじめをなくしていくためには、自ら何をすべきかを考えることができるようにする。

実施した内容

- ・各学級でいじめについて話し合い、いじめをなくすスローガンを全校で作成した。
- ・人権を大切にするための学習の一環として、人権標語づくりに取り組んだ。

工夫した点

- ・友達を大切にするにはどうすればよいかを各学級の時間に加え、集会等、全校児童でも話し合う時間を設定し、人権尊重に関する意識を高めた。
- ・いじめをなくすスローガンや人権標語づくりの取組など、児童が主体的に考え活動できる場を設定した。

他教科との
関連

- ・全ての学習活動において人権を大切にする取組として、相手の話を受容的に聴き、丁寧な言葉づかいで双方向のコミュニケーションをすることにより、互いを認め・認められる関係性の構築を目指した。

事業成果

- ・知識的側面：友達のよさに目を向け、お互いを思いやることの大切さへの理解が深まった。
- ・価値・態度的側面：他者の立場に立って、その人の気持ちや願いを想像したり、共感的に理解しようとする姿が見られた。
- ・技能的側面：仲間と協力して困難に立ち向かうとともに、自分たちができることをしていこうとする言動が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

1年・生活科

目標・人権教育のねらい

- ・地域、家族、学校の人々とふれあったり、友だちと協力して活動したりする中で、自他の良さや違いに気づき、楽しく助け合って取り組める方法を考え、チャレンジしていく力を育てる。
- ・性別に関係なく、家族のために自分ができることについて、自分の役割を積極的に果たそうとしている。

実施した内容

- ・自分の1日を振り返り、ワークシートに共通していることを見つけ話し合った。
- ・家族がしていることや、してもらっていることの中から、自分でできることを考え行動した。
- ・自分や家族のことについて、これからも続けていきたいことと新たにチャレンジしていこうと思うことを考え、発表しあった。

工夫した点

- ・児童の実践に対して家族から肯定的な感想を伝えてもらうことで、家族の役に立っている充実感を感じ、自己有用感をもって生活できるようにしたいと考えた。
- ・学級通信などで単元のねらいを保護者に伝え、どのような関わりをしてほしいかを伝えたいので、協力をあおいだ。

他教科との
関連

- ・道徳科の、夏休み前に「どんなことをしようかな」、「ありがとうがいっぱい」、「おふろそうじ」などで生活科とのつながりを意識して指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：家の仕事は性別に関係なく、家族みんなで支え合っていくことに気づいていた。
- ・価値・態度的側面：自分の役割を意識して今後も継続して取り組もうとする姿が見られた。
- ・技能的側面：性別に関係なく、家族のために自分ができることについて、自分の役割を積極的に果たそうとしている姿がみられた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

3年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・他者の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力を養う。
- ・探究的な活動を通して、高齢者とふれあい、自他の良さを認め、自分たちにできることを意欲的に考える態度を養う。

実施した内容

- ・自分が持つ高齢者のイメージをマッピングし、イメージを整理してまとめクラスで共有する。
- ・高齢者の方を楽しませることを目標に交流の内容を考える。
- ・多くの高齢者の方と交流するためには、どうしたらいいかを、今まで交流してきた高齢者の方にも助けをもらいながら考えていく。
- ・自分のことだけでなく、聞く人のことも考えながら学んだことを発信する。

工夫した点

- ・疑似体験など自分たちが経験した、高齢者の体の変化をもとに、接し方について自分なりの考えをもってから、高齢者やそこに携わる人々と出会うようにした。
- ・高齢者と交流したことを思い出しながら学習を進めることで、高齢者に対する自分の意識の変容に気づくことができたようにした。

他教科との
関連

- ・社会科にて、「久礼に住む人々」について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、学習したことを振り返りながら総合的な学習の時間に取り組めるように社会科の指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：出会いを通して、地域の高齢者が地域を支える存在であることに気づいていた。
- ・価値・態度的側面：高齢者の豊富な知識や経験に気づき、地域の一員として自分ができることを考える機会となった。
- ・技能的側面：高齢者との交流を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組む姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

障害者・外国人

対象学年・
取り扱った教科等

4年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・久礼に住む多様な人々との出会いを通し、他者の立場に立って考えたり、想像したりすることで、自分の命も他者の命も守れる行動を身に付ける。
- ・友だちと意見が異なる場合でも話し合いなどを重ねて理解し合い、自他の違いを認め合える力を養う。

実施した内容

- ・これまで日本で発生した地震や地震のメカニズムについて知り、備えについて考える。
- ・地震から、久礼に住むみんなの命を守るためには、どうしたらいいのかを考える。
- ・久礼に住む様々な人達の備えや避難の仕方について情報を収集する。
- ・障害者施設（ストックヤード）に出向き、障害のある方と一緒に体験をしながら交流を行う。
- ・調べてきたことを地域にどのように発信していくか話し合う。
- ・調べ学習や体験を通して学んだことをまとめ、自分達にできる事を考える。

工夫した点

- ・相手の人の思いや願いは何か、常に意識して話を聞いたり考えたりするようにした。
- ・久礼に住む様々な人達の災害時の備えや避難の仕方について情報を収集する時に、久礼に住む人達の地震に対する困りごとや心配事についても子ども達が直接聞き取りをするよう促した。

他教科との
関連

- ・社会科にて、「地震にそなえるまちづくり」について学習した。その際に、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識し、障害者や外国人の立場に立って総合的な学習で学んだ内容を振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：社会には多様な人がいることに気づき、相手の立場に立って考えることができていた。
- ・価値・態度的側面：友達と話し合うときに、伝える相手を意識してわかりやすく表現することができていた。
- ・技能的側面：地域に住む一員として自分たちができることを考え、発信することができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・解放令以降も不当に差別され続けた人々が、自らの手で「全国水平社」を結成したり、差別と闘ったりしたことを調べることを通して、差別の不合理に気づくことができる。

実施した内容

- ・水平社を立ち上げた人々の思いや行動について調べる。
- ・大正時代の差別をされていた人々の暮らしについて調べる。
- ・差別に対して人々が取り組んだことについて調べる。
- ・水平社宣言を読んで自分の考えをまとめる。

工夫した点

- ・社会科で取り上げられている同和問題に関する内容をその都度学習し、同和問題に対する流れを児童たちが正しく理解することを心がけた。

他教科との
関連

- ・道徳「私には夢がある」の学習を通して、誰に対しても差別することや偏見を持つこともなく公正・公平な態度で接することの大切さ（重要性）について考え、実生活の中での正しい判断や心情について振り返らせた。

事業成果

- ・知識的側面：差別と闘ったことを調べることを通して、差別の不合理に気づくことができた。
- ・価値・態度的側面：差別意識とは人々の心の中に存在し続けていることに気付くことができ、自分も他者も大切にしようとする意欲が高まった。
- ・技能的側面：仲間と協力して困難に立ち向かい克服するすばらしさを感じ、人権を尊重し、自分達ができることをしていこうとする言動が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

6年・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・鎖国により、アイヌの人々の生活の場や文化が奪われていったことを認識し、アイヌの人々に対する間違った差別をなくそうとする意欲を育てる。

実施した内容

- ・北海道に伝わるアイヌの文化は、どのようなものなのか知る。
- ・北海道で昔から生活していたのは、先住民であるアイヌの人々であることを知る。
- ・鎖国のもとでの交流が、長崎、琉球、蝦夷地、対馬で行われていたことを理解する。

工夫した点

- ・「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」や「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」の紹介を授業の中で行った。

他教科との
関連

- ・道徳「エルトゥールル号 友好の始まり」の学習を通して、他国の人々と支え合い、助けあうことの大切さ（尊さ）について考えた。

事業成果

- ・知識的側面：アイヌの人々とは、北海道の先住民であり、固有の言語、伝統的な儀式・祭事、独自の習慣をもっていることについて理解を深めた。
- ・価値・態度的側面：基本的人権を保持するためには、人権が守られているかを見直したり、守られるよう求めたりすることが大切であると話し合う姿が見られた。
- ・技能的側面：日常生活の中で、自他を尊重しながらコミュニケーションがとれている。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

6年・保健

目標・人権教育のねらい

- ・ HIVの特性や感染経路、予防方法などを通して、エイズという病気を正しく理解する。
- ・ HIV感染症に対する間違った情報が、偏見につながりそこから生まれる差別が間違いであることを理解する。

実施した内容

- ・ エイズはどんな病気なのかについて考える。
- ・ HIVの感染経路や予防方法について話し合う。
- ・ HIVの特性や感染経路、予防方法について知る。
- ・ 現在のところエイズを完全に治す薬はないが、発症を押さえる薬があることを知る。
- ・ 日本での偏見・差別の実例を聞き、自分達にできる事は何かについて考える。

工夫した点

- ・ 新型コロナウイルス感染症と関連して学習を行い、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」（日本赤十字社 作）の資料を活用して、「病気」「不安」「差別」のつながりについて学習を深めた。

他教科との
関連

- ・ 特別活動「学級活動」の時間に良い人間関係の形成に向けて互いの良さを見つけ、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりすることの大切さに気付くことができた。

事業成果

- ・ 知識的側面：HIVの特性や感染経路、予防方法などを通して、エイズという病気を正しく理解できた。
- ・ 価値・態度的側面：HIV感染症に対する間違った情報が偏見につながり、そこから生まれる差別が間違いであることに気づき、自分達の言動について振り返ることができた。
- ・ 技能的側面：日常生活において自他を尊重した言葉使いを意識する姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

5年・特別の教科道徳

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病の歴史や、ハンセン病患者であるきみ江さんの姿を通して、誰もが幸せになれる社会とはどんなものなのかを考えさせ、社会的な差別や偏見と向き合い、公正、公平な態度で行動し、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。

実施した内容

- ・「幸せ」とはどんなものなのかを考え、出し合う。
- ・「だれもが幸せになれる社会を」を読み、ハンセン病の元患者たちの宿泊を断ったホテルのどんな考えが間違っているのかを考え、発表する。
- ・きみ江さんは、どんな思いで「人が同じあやまちをくり返さないよう」言っているのかを考え、発表する。
- ・「ハンセン病問題」を通して、誰もが幸せになれる社会とはどのようなものなのか、また、そのような社会を実現するためにはどのようなことが必要なのかを考え、話し合う。

工夫した点

- ・他の人権課題とも関わらせながら差別的な側面について学び、日本国憲法に示されている基本的人権、世界人権宣言にも関連させながら学習した。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間に他の人権課題について学び、正しい知識と理解が大切であることや、学んだことをもとに、自分達ができることは何かを考え、発信する時間を設けた。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病の歴史や、ハンセン病患者であるきみ江さんの姿を通して学習を深めた。
- ・価値・態度的側面：ハンセン病患者であるきみ江さんの姿を通して、誰もが幸せになれる社会とはどんなものなのかを考えることができていた。
- ・技能的側面：社会的な差別や偏見と向き合い、自分ができることについて考え、行動に移そうとする姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

犯罪被害者等
刑を終えて出所した人

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

目標・人権教育のねらい

誰もが犯罪被害者・加害者等になる可能性があることに気付かせるとともに、二次被害、再犯を起こすことのないようにする。

実施した内容

- ・集会や終業式での学校長からの講話（長期休業日前など）
- ・警察、スクールサポーターなど関係機関による授業（非行防止教室、いじめ防止教室、薬物乱用教室、生活安全教室、交通安全教室、学校安全）

工夫した点

- ・関係機関との連携により、実践的な学習を行う。
- ・具体例を示して、自分事として考えることができるような授業展開を意識した。（動画、パワーポイント等の視覚教材の活用）

他教科との
関連

- ・道徳科において、全学年で道徳内容項目「親切、思いやり」を学習し、相手のことを思いやり、人を大切にできる態度を養う指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：関係機関から講師を招き、専門的な内容を通して、安心して生活できる社会のあり方について正しく理解できた。
- ・価値・態度的側面：正しい知識を得ることにより、児童間で起きたトラブルのスムーズな解決につながった。間違った情報が偏見につながり、そこから生まれる差別が間違いであることに気づき、自分達の言動について振り返ることができた。
- ・技能的側面：日常生活において自他を尊重した言葉使いを意識する姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

5年・社会科

目標・人権教育のねらい

- ・情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を育てる。
- ・他者（友達や家族、地域の人）の立場に立って、その人の気持ちや願いを想像する力、共感的に理解しようとする力を育てる。

実施した内容

- ・日常生活の中で得られる情報やそれらを手に入れる方法について話し合い、情報について関心や興味をもったことについて調べる。
- ・身のまわりの情報が生活に及ぼす影響について調べる。
- ・情報を受信したり、発信したりする際の問題点を考え、しっかり考えて情報を扱うことの重要性を知る。

工夫した点

- ・情報モラルについて考える際、実施に起こった事例（新型コロナウイルス感染症、誹謗中傷等）を提示し、子ども達が「自分事」として考えることができるようにした。
- ・一人一台のタブレット機器使用と合わせ、インターネットの「利便性」と「危険性」について学習をおこなった。

他教科との
関連

- ・道徳の「インターネット上のマナー」にて、情報モラルについて学習した。その際に、インターネットの非対面性、匿名性、拡散性について日常生活と結び付けながら指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：情報を有効に活用するために大切なことや、様々な情報に対して適切に判断する力について理解を深めた。
- ・価値・態度的側面：他者の立場に立って、その人の気持ちや願いを想像したり、共感的に理解しようとする姿が見られた。
- ・技能的側面：一人一人がマナーを守り正しく利用しようとする姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

2年・特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・「女らしさ」「男らしさ」という固定観念にとらわれず、男女の区別は関係なく、「自分らしさ」が大切であることに気づく。

実施した内容

- ・事前アンケートの結果から、生活の中で、「女らしさ」「男らしさ」を意識する場面があることを知る。
- ・アンケート結果の自分たちが感じている「女らしさ」「男らしさ」から気付いたこと等を発表する。
- ・女/男らしさにとらわれず、自分らしさを表すもの（好きなもの）を発表する。
- ・自分も他者も自分らしさを大切に生活するために大切なことをグループで話し合い、発表する。

工夫した点

- ・身の回りの生活で固定観念化されている事例の殆どが性別ではなく、個性による違いであることに気付くようにした。
- ・「女らしさ」「男らしさ」という固定観念に気付かせるとともに、一人一人好きなものが違うことを確認した。

他教科との
関連

国語科の「お手紙」の学習を通して、友達を思いやる気持ちと、それに伴って行動することの素晴らしさを学習した。

事業成果

- ・知識的側面：社会の中にある固定的な思い込みや先入観に気づき、「自分らしく」生きることについての学習を深めた。
- ・価値・態度的側面：価値観の多様性を認め、お互いを尊重しようとする言動が増えた。
- ・技能的側面：よりよい人間関係を築くために、自分ができることについて考えることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

高知県

学校名

中土佐町立久礼小学校

人権課題

その他（生命）

対象学年・
取り扱った教科等

2年・特別の教科道徳

目標・人権教育のねらい

- ・まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかを考えさせ、命を大切にするための判断力や心情を育てる。

実施した内容

- ・「いのち」の誕生について考える。
- ・「生まれるということ」を聞き、話し合う。
- ・命はたいせつだなと思った経験を話し合う。
- ・自分が生まれた時のことについて、家族に聞き取ったことを友だちに伝え合う。
- ・聞き取ったことを読み返して、どんなことを思ったか自分の考えをまとめる。

工夫した点

- ・学級通信などで単元のねらいと、どのような関わりをしてほしいかを保護者に伝え、協力をあおいだ。

他教科との
関連

生活科の「あしたへジャンプ」において、生まれてからこれまでを振り返る学習を行った。その中で自分がどのようにして生まれたのか等を親に聞き、自分の命について考える機会を設けた。

事業成果

- ・知識的側面：命がつながっているとはどういうことなのかを考え、命について学習を深めていった。
- ・価値・態度的側面：家族に聞き取ったことから自分が大切な存在であることに気づき、自分も友だちも大切にしようとする態度の高まりが見られた。
- ・技能的側面：自分も周りのみんなも一人一人かけがえのない存在であることに気づき、自分も、友だちも大切にする言葉使いを心がけていた。